

1 総合的な学習の時間における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

(1) 総合的な学習の時間の特徴

- ① 「探究的な学習」, 「協同的な学習」であること。
- ② 「目標」, 「育てようとする資質や能力及び態度」, 「内容」は各学校において定めること。

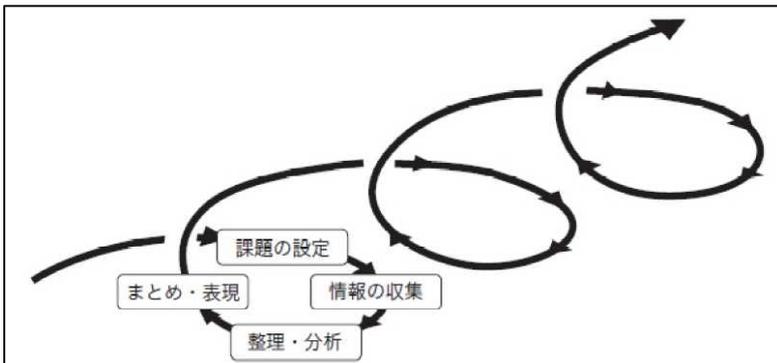
<育てようとする資質や能力及び態度の例示>

①学習方法に関すること	②自分自身に関すること	③他者や社会とのかかわりに関すること
児童が横断的・総合的な学習や探究的な学習を主体的, 創造的に進めていくために必要な資質や能力及び態度に関する視点	自分自身の生活や行為の在り方, あるいは自己理解や自己省察に必要な資質や能力及び態度に関する視点	他者との協同や社会とのかかわりに必要な資質や能力及び態度に関する視点

(2) 探究の過程を意識した指導計画の作成に当たって

- ・ 内容 (コンテンツ) と能力 (コンピテンシー) の二つを明確にし, 組み合わせながら単元を構成する。
- ・ 図 1 のような, 児童・生徒が問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく一連の学習活動を行うことで, 「最適解」「納得解」を探る学習となるように単元を構成する。

<図 1 探究的な学習における子どもの学習の姿>



<授業改善のポイント>

- ① 課題の設定, 整理・分析を充実させること。
- ② 課題の設定については, 課題の質を高めること。
- ③ 整理・分析については, 考える技法を具体的に提示すること。

<探究の4つのプロセス>

- ① 課題の設定 — 体験的な活動等を通じて課題意識を持つ。
- ② 情報の収集 — 必要な情報を取り出したり, 収集したりする。
- ③ 整理・分析 — 収集し, 取り出した情報を整理, 分析する。
- ④ まとめ・表現 — 気づきや発見, 自分の考えなどをまとめ, 判断し, 表現する。

【① 課題の設定】(小・中 指導資料 P20~23)

- ・ 児童, 生徒が暮らしの中から問題状況を見いだす。

- 現実と理想とのギャップから
 - ・ デフォルメしたり, 現実や理想に目を向けさせたりする。
- 問いを顕在化のために

{	違和感	「あれ」	⇒「気になる」
	必要感	「おや」	⇒「何とかしたい」
	矛盾	「なんで」	⇒「解決したい」

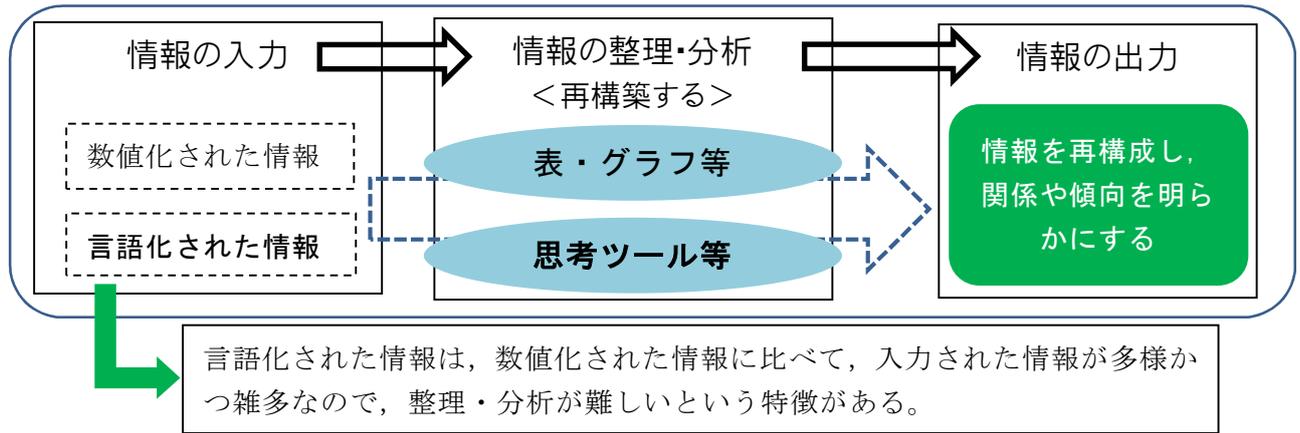
【② 情報の収集】(小・中 指導資料 P24~30)

- ・ 設定した課題を基に, 児童・生徒が自覚的に情報を収集する。

小・中学校 総合的な学習の時間

【③ 整理・分析】(小 指導資料 P31～37, 中 指導資料 P31～38)

- ・ 収集した多様な情報を整理したり, 分析したりする。



<思考ツールの活用>

(例) 「考えましょう」という発問をより具体的に

⇒ 「比べて考えましょう」(ベン図の活用)

⇒ 「関連付けて考えましょう」(ウェビング図の活用)

良さ

- ・ 可視化できる
 - ・ 動作化できる
- 自ら学び (能動的に)
共に学ぶ (協働的に)

【④ まとめ・表現】(小 指導資料 P38～45, 中 指導資料 P39～45)

- ・ 情報の整理・分析後, 他者に伝えたり, 自分自身の考えとしてまとめたりすることで, 一人一人の考えが明らかになったり, 課題が一層鮮明になったり, 新たな課題が生まれたりする。

2 総合的な学習の時間と学力の向上

(1) 平成 26 年度全国学力・学習状況調査から見える「総合的な学習の時間」と平均正答率との相関について (図 2)

図 2 教科の平均正答率と児童・生徒質問し (40) との関係

